

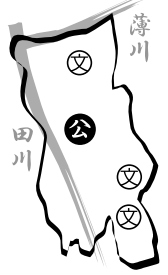
庄内地区15町会 水害対策アンケート結果

町会名	質 問					
	薄川、田川、和泉川等の河川に対し、水害対策としての草刈を行っていますか？	災害用物資はありますか？	災害物資の保管場所は？	水害対策用の物資を用意していますか？	水害時、地域が水没することを想定し、高台等の避難場所を決めていますか？	
南新町1	×	○	建物の1階(防水なし)	×	決めていない	町会全域
南新町2	○	○	建物の1階(防水なし)	×	筑摩小学校	田川・三番川の合流点
逢初	○	○	建物の1階(防水なし)	×	決めていない	町内南部三番側付近
新家	×	×	建物の1階(防水なし)	×	決めていない	田川・薄川
庄内	○	○	建物の1階(防水なし)	×	公民館 サーパスシティ庄内	田川沿い
豊田	○	○	建物の1階(防水なし)	×	生活アシストセンター	逢初川流域、町会全域
出川	×	○	防災倉庫	×	南部体育館	出川橋上流～下流
出川町第一	○	○	建物の1階(防水なし)	×	ユーパレットビル駐車場	田川・和泉川合流地点
並柳	○	○	建物の1階(防水なし)	土のう袋	決めていない	牛伏川合流 円乗寺南斜面(土砂崩れ)
並柳団地	×	○	建物の1階(防水なし)	×	決めていない	団地の東斜面
神田	○	○	防災倉庫	×	決めていない	特になし
三才	×	○	建物の1階(防水なし)	×	決めていない	特になし
筑摩	○	○	建物の1階(防水なし)	×	決めていない	薄川からコモ庄内区間までが冠水
筑摩東	×	○	建物の1階(防水なし)	×	決めていない	不明
中林	×	○	建物の1階(防水なし)	×	筑摩小学校	薄川が氾濫すると町会全域が危険

侮れない！ 私たちの身近に潜む水害

館報

庄内



庄内地区	
平成29年9月1日現在人口	
世帯数	6,872戸
男	7,492人
女	7,466人
合計	14,958人
発行	庄内地区公民館 (ゆめひろば庄内)
	電話 24-1811 FAX 24-1812

10月22日に開催されるドリーム庄内「秋のつどい」は、今年も防災運動会を開催することとなりました。競技における防災にちなんだ種目が水害発生時を想定したものであることから、今回水害に関する特集を組むこととしました。

庄内地区の現状を知るため、最初に15町会の町会長・公民館長に、地区の水害対策等に関するアンケート調査を依頼しました。

調査項目として、水害を中心に考えた町会ごとの対策、地域の水没を想定した物資の保管場所等、館報編集委員会が独自に様式を作成し、ご協力いただきました。

その結果、14/15町会が防災物資を用意しているものの、水害用物資は1/15町会が土嚢を用意しているのみという結果になりました。どの町会も日頃防災に関する準備や訓練を重ねていることと思いますが、地震と水害では、それぞれ必要な物資は異なってきます。水害時に必要な物資と

は何なのか？ 物資の保管場所や避難所はどうするか？ 地震と同じく豪雨災害もいつ来るか分かりません。具体的な対策をさらに検討する必要があります。あるのではないのでしょうか。

次に、河川管理について考えてみたいと思います。

庄内地区の河川の一部区間では河床の草木が伸び放題で、ひどい所では橋まで届いています。大雨の際、流された雑草や雑木が橋に引っ掛かればすぐ水害に繋がってしまします。伐採した河床の草木は多量のゴミになりますが、撤去には労力が必要です。河床での火気使用は禁止なので燃やせません。しかし放置したままだと大雨の時には…。

河川への対策には市、県、消防、それぞれの河川に関係する団体の皆さまのご協力が必要かと思いますが、まずは住民1人1人が身近に潜む危険について関心を持つことが大切ではないでしょうか？

今回の記事作成にあたり取材協力をいただいた町会関係者、市危機管理部、丸の内消防署庄内出張所、松本保健所といった多くの皆さまにお礼申し上げます。

次号では、水害対策や水害の歴史について掲載します。

今朝にコモ庄内西側道路を通ると、歩道の掃除をしている人や、レジ袋とトンゲをもって、ごみ拾いをしながら散歩をしている人を見かける。午前中には、企業の人たちが、道路のごみ拾いをしていて、まったく頭が下がる思いだ。

庄内地区の川は昔と比べると、ごみが減り油膜や泡が流れていることがなくなった。

我が家の前を流れる小川には、平家蛍の光がまた見られるようになった。つい先日、この小川で、3cmぐらいの沢蟹1匹を見た。環境が良くなったと実感する。

50年前は、筑摩小学校の北体育館わきに鉄パイプから自噴する井戸水で喉を潤した。筑摩小の校歌にある「こんこんわくよ流れるよ清いわき水学びやの」の校歌どおりであった。今は、30年くらい前の地下水汚染で、井戸水を瓢箪池と鯨池に流すようになった。学校で井戸水の水質検査を行った結果、飲めるらしいが、現代っ子には、井戸水があわないかもしれない。しかし私は鉄パイプから自噴する清いわき水を飲みたい。(西口賢一)



並柳町会

歴史・沿革

並柳町会は、昭和23年に町会が組織され来年で70年を迎えます。当時の戸数は60戸、大半が農家でした。昭和30年代後半にはセルリー栽培が盛んになり、日本有数の産地となりました。地域に入るとセルリーの匂いで満ちていたものです。また、当時の弘法山は二セアカシアの林でした。30年程前に伐採して桜の植樹が始まり、今では桜の名所となりました。春になると全

国から大勢の観光客が押し寄せ、花見を楽しんでおります。現在の町並みは、昔の農業地域だった面影が消え、店舗と住居が多く建ち並ぶ活気ある町へと変化しました。人口3695人、世帯数1565戸と、庄内地区最大の町会と成っています。

地名の由来

中世鎌倉期からの戦国期の並柳郷にさかのぼる地名、江戸期から明治期にかけては村名となり、現在の町名に至っています。かつてこの地に湖があり、その水辺に柳が繁茂していたことにより、その名

がついたと伝えられています。その昔、現在の公民館の位置にお堂があり、現在に至るまで薬師様を祀っています。そのため、昔から伝承行事としてお十夜、やしうま行事が行われて来しました。行事を後世に伝承すべく町会役員、公民館委員が奮闘しています。

また、恒例の文化祭も今年で34回目を迎えました。



町民の皆様の趣味の作品や、子ども達の作品の展示、様々な体験学習(折り紙、絵手紙、押し花等)が、公民館の中で行われています。屋外イベントとしては、臼と杵による餅つきを行い、アッコ餅にして町民に配布しています。また、地元農家組合の野菜販売や青年会による

焼き鳥、飲物の販売、子ども向けのくじ引きを行う等、いこいの広場を設け、町民の絆づくりに貢献しています。

防災への取り組み

自分達の町会は自分達で守るとの理念から、自主防災組織の確立を進めています。その一歩として本年7月1日より公民館を始めとする町内3ヶ所にAEDを設置しました。

日頃の公民館活動にまだ多くの課題はありますが、今後共地域に密着した活動を続けていきたいと思っています。(J・M)

筑摩町会

沿革

筑摩町会は、筑摩神社の南からコモ庄内までの広い範囲にあり、世帯数は462戸。隣組は44組で構成されています。

町会運営においては、数組に一人の理事が選任され、四役と七人の理事で毎月理事会を開催し、必要な案件が審議されています。

各理事は町会六部会の部長を務め、部会毎に定例事業の推進を行っています。

防災への備え

当町会の公民館は、昭和39年に乳業会社の廃材を貰って町内の大工さん達が手作りして建てたそうです。しかし、53年も過ぎ耐震性も心配な為、災害時の避難場所は、近くの「花の法祥苑」と「筑摩神社社務所」にお願いし、お借りすることとなっています。

本年度防災防犯部は、炊き出し訓練に加え、ジャッキを使用して倒壊家屋からの救出訓練を行いました。

過去の大雪の経験から、雪かきボランティアの会を発足させ、昨年暮にも準備の為の

会合(飲み会)が開かれましたが、幸い出勤の機会はありませんでした。

つかませいねん会

当町会の自慢は、つかませいねん会の活動です。30代から60代の方々40人で、25年前から活動しています。最近では9月24日に、子ども祭が筑摩神社境内で趣向をこらし行われ、50人以上の子どもが楽しみました。他に蕎麦打ちやしめ縄張り、庄内地区の行事への参加協力等いろいろあります。町会の頼もしい助っ人です。

公民館での活動

公民館活動の一つとして、カラオケが月2回10人程度の参加で開かれています。声を出す事は嚙下障害を防ぐのに良いと聞き、雑談はなるべく控え、皆で楽しく唄っています。仲間に入りたい方を募集しています。定例行事の他、一日喫茶、ふれあい健康教室等が開かれ、公民館は町会の拠り所となっています。

最近では手づくり料理を出す町会が減ってきているようですが、当町会では婦人部(理事婦人)、民生児童委員、健康づくり推進員等が協力し温



かい料理を作り、喜ばれています。そんなところから役員のもとまりが良く、行事がスムーズに実施されているのだと思います。(岩岡)